

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO.103

令和2年(2020年)

令和2年度全国大会の実施報告

発行 日本庭園学会(会長 大澤 伸啓)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部
造園科学科 庭園文化研究室
TEL(03)-5477-2428(栗野隆理事)
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

令和2年度全国大会の実施報告

令和2年度の全国大会は、以下の日程で、令和2年(2020)年11月1日(日)にリモート(ZOOM)により開催致しました。この度は、事後報告となりましたことを、お詫び申し上げます。

◆プログラム

- 08:45~09:00 受付
- 09:00~09:45 理事会
- 09:45~10:00 総会受付
- 10:00~10:45 総会
- 10:50~11:00 開会あいさつ、研究会のオンライン開催の留意点の説明
- 11:00~12:30 研究発表会
- 12:30~ 閉会挨拶
会長(平成30・令和元年度期)
佐々木邦博



総会の様子

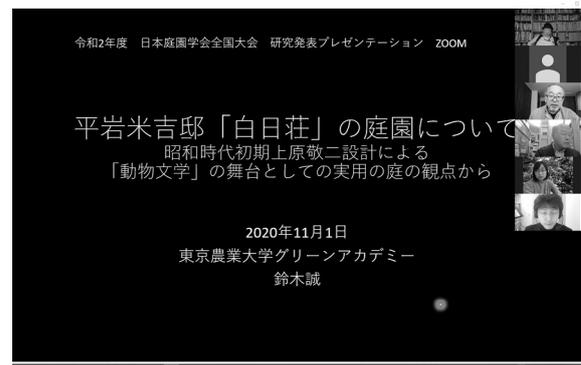
◆研究発表会 概要

発表 25分、質疑応答 5分、合計 30分(交替時間を含む)

11:00 ~ 11:30

1. 「平岩米吉邸「白日荘」の庭園について
- 昭和時代初期上原敬二設計による「動物文学」の舞台としての実用の庭の観点から」
鈴木 誠(東京農業大学名誉教授)

動物文学会の創設者(1934)として知られる平岩米吉(ひらいわ よねきち、1898-1986)が、自ら構想した自由が丘の自邸「白日荘」(1929)の庭園設計は上原敬二であった。この白日荘の庭園について、竣工当初の姿の復元的考察とその後の庭園変容の特徴についてまとめた。なお、本報告は(公財)日本自然保護協会「目黒区自由が丘3丁目計画/既存家屋・家具・庭園・自然環境等調査業務報告書」(2020.3)の中の庭園調査結果に基づいたものである。



日本庭園学会ニュース 用 研究発表関連写真

東京農業大学グリーンアカデミー
2020年11月1日

鈴木誠

令和2年度 日本庭園学会全国大会 研究発表プレゼンテーション ZOOM

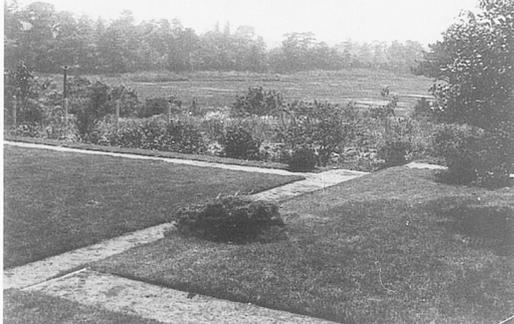
平岩米吉邸「白日荘」の庭園について 昭和時代初期上原敏二設計による 「動物文学」の舞台としての実用の庭の観点から

2020年11月1日
東京農業大学グリーンアカデミー
鈴木誠



白日荘庭園の現況

写真1 主庭の西側付近と西方向への眺望
出典：平岩由伎子『狼と生きて一父・平岩米吉の思い出』築地書館、1998



自由が丘の庭より九品佛方面をのぞむ 昭和4年頃

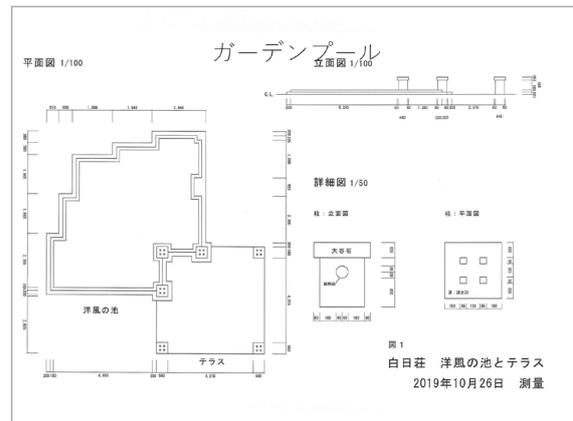


図1
白日荘 洋風の池とテラス
2019年10月26日 測量

現況と古写真の庭の景観との 同一アングルによる比較

古写真出典：平岩由伎子『狼と生きて一父・平岩米吉の思い出』築地書館、1998



ハイエナの子へ一坊と父 昭和11年秋

現況と古写真の庭の景観との 同一アングルによる比較

古写真出典：平岩由伎子『狼と生きて一父・平岩米吉の思い出』築地書館、1998



自由が丘の庭より九品佛方面をのぞむ 昭和4年頃

現況と古写真の庭の景観との 同一アングルによる比較

古写真出典：平岩由伎子『狼と生きて一父・平岩米吉の思い出』築地書館、1998



自由が丘の家 昭和4年頃

◆令和2年度日本庭園学会全国大会のレポート

張平星（東京農業大学地域環境科学部造園科学科 助教）

令和2年度日本庭園学会全国大会は、2020年11月1日（日）にZOOMにて開催されました。1月から新型コロナウイルスの流行が世界中に広がり、予定していた6月の福井大会は開催できなくなりました。しかし、秋の関西大会に総会を加え、令和2年度の全国大会として新しいオンラインの形で開催できたのは大変嬉しく思います。大会は現地検討会を割愛し、研究発表会を小規模で開催しました。

1件目の発表は、東京の自由が丘に位置する昭和初期の別荘「白日荘」の庭園の調査結果から、造営当初の作庭意図や庭園景観の変遷の整理を行いました。「白日荘」は動物文学者の平岩米吉の自邸であり、上原敬二の設計により洋風庭園が作られました。完成当時は生活上実用的な庭園であったが、その後平岩米吉が飼育した動物たちの住まいの庭へと、別の意味での実用的な庭園へ変貌しました。動物優位の近代の別荘庭園は、おそらく他に類例がないため、貴重な事例として熱い議論が交わされました。

2件目の発表は、日本の20～69歳の勤労者3000人を対象に、「しおさいランキング」に掲げられる21庭園についての認識度を統計分析した結果、日本庭園への関心は、クリエイティブな勤労意識との相関性、そして社会関係資本の充実につながる傾向がみられました。さらに、日本庭園の関心層は高齢層だけでなく、幅広い年齢層によって構成されている、という興味深い結論が得られました。

3件目の発表は、天王山南麓に位置する後鳥羽上皇の離宮・水無瀬殿の立地と諸施設の現状、尾山遺跡の鎌倉時代の池跡について報告を行い、JR島本駅周辺の開発によって遺跡が消滅する危機に瀕していることから、水無瀬神宮を中核として

水無瀬殿に関連する遺構群を保存する必要性と緊急性が提示されました。発表後の討論では、鎌倉時代の庭園の実態に関する研究成果が少ない中の水無瀬殿の重要性、さらなる学術調査の必要性、地形を含めた地域全体の保全計画の必要性が話題として取り上げられました。さらに、平泉と水無瀬殿の地形の類似性についての最新情報が交換されました。

オンライン大会は、現地検討会で庭園を体で感じ取り、懇親会で交流を盛り上げることができないが、旅費や服装を気にせず自由に参加できることや、複数の学会の日程が被っても同時に参加できることなどのメリットがあり、残念なことばかりではありません。世界の流れからみると、学会開催は現地とオンラインを併用する時代に入っていると思います。

庭園の保全と発展、庭園の価値と魅力を若い世代に伝えることが変わらない課題であるが、人と人の交流が不自由になっているウィズ・コロナの状況下、日本庭園は「歴史＋文化＋芸術＋自然」の総合体として、社会に大きく貢献できると信じています。一年延期した福井大会の無事開催、そして皆さんにお会いできることを願うばかりです。

■

◆令和2・3年度期 学会長 挨拶

大澤 伸啓（日本庭園学会会長）

さる11月1日にオンラインで開催されました令和2年度総会におきまして、会長となりました。会員の皆様におかれましては、新型コロナウイルスの流行によって不自由な生活を強いられておりますこと、心からお見舞い申し上げます。

本会は、その設立趣意にありますように、日本庭園を造園専門分野からのみアプローチするのではなく、多方面から総合的に研究・討議するとともに日本庭園を軸として日本文化について考究する会であります。私も歴史学の中の考古学を専門とする者ですが、この設立趣意が本会において実践されていることを感じながら、今日まで学会活動を続けてまいりました。さまざまな学術分野の研究者や庭園の整備、維持管理を实践する会員の皆様からいただくご意見やアドバイスが、自分自身の活動への大きな糧となっております。

これからもこの強みを活かしていくと共に、調査研究の成果を広く社会に還元することを目指し



たいと思います。また、継続しております海外の研究機関との交流も積極的に推進していくと共に、日本庭園のすばらしさを国内外に広く発信していきたいと考えております。

会員の皆様におかれましては、健康にご留意されますようご祈念いたしますと共に、学会活動にも積極的に参加していただき、盛り上げていただければ幸いです。今後とも本学会の活動に対しご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年11月1日



関係国際学術団体（連携協定・連携協力学協会）の紹介 2 社団法人 韓国伝統造景学会

鈴木 誠（東京農業大学名誉教授）

今回は、2013年に連携協定を締結した「韓国伝統造景学会」(Korean Institute of Traditional Landscape Architecture)、の活動の概要を、現学会長の盧載鉉先生からの寄稿を基に紹介して、会員諸氏の今後の国際活動の参考とさせていただきます。

2. 社団法人 韓国伝統造景学会 (社) 韓国伝統造景学会長 盧載鉉

(社) 韓国伝統造景学会は韓国伝統造景観文化を調査研究し、その思想と技法を保存・伝承し、現代庭園文化を成立・発展させることで造景文化向上に寄与することを目的とし、1980年12月12日に発足した。初期には「韓國庭苑學會」であったが2004年に現在の名称に変更された。

現在、(社) 韓国伝統造景学会の会長である又石大学造景学科盧載鉉会長は“参加し疎通する楽しい学会”をモットーとし、伝統造景の発掘、回復及び復元を通じて庭園コンテンツの拡張と活用のための事業に力を注いでいる。実際に伝統造景学会は文化財保護法上の記念物(名勝、史跡、天然記念物)を対象とした政策及び学術研究をはじめ、宮苑及び古庭園分野の調査研究、復元の建議及び施工に関する設計および監理などを主要業務としている。さらに、現代庭園文化の暢達と活用のための調査研究、教育普及及び広報にも次第とその比重を高めている。本会ではこのような事業目的を達成するために学会誌と研究に関する図書の刊行、外国の関連学会および国際機構との専門技術や情報の交換、その他この法人の目的を達成するために必要な事業も推進している。

伝統造景学会は2019年9月の時点で関連学問を専攻したり、造景研究と実務に就いている人及び伝統造景観に関心のある正会員が1140名に及ぶ。そして大学の関連学科及び大学院修士課程などの準会員も21名所属している。加えて、30あまりの関連企業が団体会員となっている。

本学会は定期的に毎年春季と秋季の2回、定期総会と臨時総会を学術大会と共に開催し、2日の日程で学術調査を持続的に推進している。特に今年の5月4日、春季学術調査では約40人の会員が会長と本学会の会員でもある

専門解説士の引率で、昌徳宮、昌徳宮の非公開区域である新璫源殿、大報壇、葉善齋の後苑を探訪した。



2018 春季学術大会



2019 春季学術大会 昌徳宮

また、夏季と冬季休暇期間には、中国と日本をはじめとするアジアの庭園遺跡を対象とする海外学術踏査を持続的に行い、東アジアの庭園の理解とともに韓国庭園固有の特性を自覚するきっかけとしている。現在、盧載鉉会長は海外踏査以外に季節別踏査も実施し、本学会学術誌を通じて紹介された庭園と庭園文化の拡散にも力を注いでいる。特に2018年の推計ではよく知られていない忠清南道内浦地域の庭園紀行を施行し、2018年9月には韓国造景学会と共同開催した学術大会の一員として済州道一帯の名勝を探訪した。また、2019年3月には天然記念物に指定された韓国の代表的な梅を探すための‘探梅紀行’を試みた実績もある。そして10月には“月の昇る

名勝、月淵亭"をテーマに慶尚南道密陽と咸安地域樓亭視察旅行も行った。



2019 平城宮跡



2019 海外中国西安

近年約10年間の伝統造景学会が主管して施行した主要事業を見ると、「天然記念物植物の主治医の導入に向けた調査研究」(文化財庁、2010)、「伝統造景施設物の設計と施工の研究」(扶余郡文化財保存センター、2010)、「韓国伝統庭園造成基準及び普及活性化方策研究」(国土海洋部、2012)、「国家指定文化財民俗村の外来植物の現況と管理策」(文化財庁国立文化財研究所、2012-2014)、「韓国の伝統庭園の活性化に向けた標準モデルの開発及び支援方策研究」(国土交通部、2013)、「宮殿・御陵野食材管理改善事業研究用役」(文化財庁、2014)、「庭園文化の拡大に向けた国家の庭園振興策の研究」(山林庁、2014)、「新羅王京の造園空間研究戦略樹立に向けた基礎研究」(文化財庁、2014)、「朝鮮王陵の歴史文化景観林資源調査研究」(文化財庁、2015-17)、「慶州の東宮と月地伝統庭園の整備計画研究」(慶尚北道文化財研究院、2016)、「徳寿宮造園整備基本計画研究」(文化財庁、2016)、「宗廟植生分析及び伝統庭園管理策研究」(文化財庁、2016)、「名勝保存・管理策(指定区域基準作り)研究」(文化財庁、2016)、「韓国の伝統庭園の活性化対策基本計画樹立に関する研究」(全羅南道、2016)、「名勝指定区域の

適正性調査研究」(文化財庁、2017)、「馬耳山保護区域内の外来植物分布の現況及び管理策に関する研究」(全羅北道、2018)、「白雲洞園林学術シンポジウム、および樹木と樹林帯調査研究」(康津郡、2018-19)、などの多くの公共業務を遂行して会員の専門性と経験を韓国の伝統造景の保全と活用に生かしてきた。

本学会ではこのような研究成果を反映して、現在1年に5回の「韓国伝統造景學會誌」という名称の学術誌を発行しており、12月号は韓国語版と英文版が一緒に発行されている。現在2019年9月号まで通巻109号を発刊したが、これは韓国における造景、レクリエーションに関する研究論文集の中では「造景学会誌」に続き、2番目に高い誌齢でもある。本学術誌では、新しい伝統庭園の紹介、伝統性の高い造景施設と造景空間の新しい照明と保存、伝統造景と伝統文化の活気と活用方法の提示、そして海外の由緒ある庭園の吟味などを主題とした研究が掲載されている。特に、本学会学術誌は伝統庭園や伝統名勝、園林文化などをテーマにした国内唯一の学術誌で、伝統園芸関連の論文作成時に本誌が最も多く引用されたり(46.2%)、本誌に掲載された論文が最も多く引用された(45.4%)と集計されることから、伝統造景分野に独歩的領域を持っている。

また、文化隆盛基調による伝統庭園文化拡散の主役として、「伝統庭園造成」に関する学術DBの提供および伝統造景理論の根拠を提示したり、海外の伝統庭園造成資料を提供し、韓国伝統庭園の原型を究明するのに重要な役割を果たしてきた。それだけでなく、前述したように学会主管学術踏査の一般参加機会を拡大した点も自負できる部分だ。特に、中国や日本など学会の定期海外踏査に対する一般市民の参加機会の拡大や伝統庭園の認識を高めたという点も自負できる。さらに、さまざまな出版事業も行っているが、2002年本学会で初刊された『韓国庭園文化史』という本は伝統造景分野の一大力作であり、伝統造景の教本にして大学の主な教材に活用されている。

盧載鉉現会長は、「今は中国と日本はもちろん、西欧関連学会との交流が持続的でない点は非常に残念な部分で、今後の交流および疎通策の模索が必要だ」と指摘している。

(原文韓国語、日本語訳：李 赫宰)

連絡先：Tel 82-2-563-1887 Fax 82-2-563-1985

Email kitla@chol.com URL <http://www.kitla.or.kr>

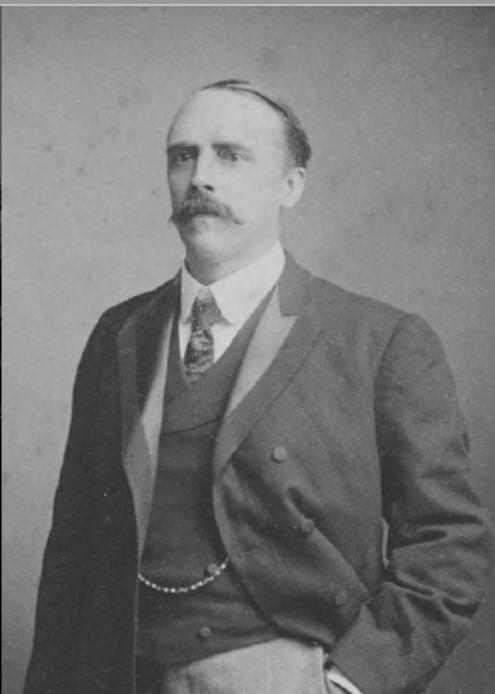
Korean Institute of Traditional Landscape Architecture

1303, 309, Gangnam-daero, Seocho-gu, Seoul, Republic of Korea

令和2年度
特別展

コンドル博士と 岩崎家四代

101年後の和魂と洋才







西洋の建築技術や知識、すなわち“洋才”を日本人に伝え、世界に輸出した近代期の日本に、多大な恩恵をもたらしたジョサイア・コンドル博士。その間、狩野派絵師・河野晧斎に師事して晧斎の雅号で日本画を描き、日本庭園や華道についての研究書を執筆するなど“和魂”に親しんでいた事や、男爵・岩崎家四代との関わりを紹介します。

令和3年

1/30 土 ▶ 3/14 日

10:00 ~ 17:00 休館日 毎週月曜日

入館料 300円
(20名以上の団体は1人210円)

- 中学生以下と65歳以上の方、障害者手帳などの提示で、ご本人と介護の方1名は無料です。●友の会会員は無料です。
- 文京区立碑外記念館との相互割引あり。



記念講演会

講 師：藤井英二先生（千歳大学名誉教授、元・日本庭園学会会長）

講 題：「ジョサイア・コンドルの日本建築観」〈仮〉

日 時：令和3年2月13日(土) 午後2時から4時

定 員：100名 ※定員超過の場合は抽選

対 象：高校生以上

会 場：文京区民センター3A会議室（文京区本郷 4-15-14）

※往復はがきに「2/13講演会」、氏名、年齢、性別、連絡先も、返信はがきに住所と氏名を明記し、1月29日(金) 必着で文京ふるさと歴史館へお申し込み下さい。1通につき2名様まで申し込みます。

史跡めぐり「コンドルさん邸 一岩崎家駒込別荘から古河家西ヶ原邸を歩く」

日 時：令和3年3月4日(木) 午後1時から4時

定 員：30名 ※抽選の場合は抽選

費 用：行事参加費無料及び入館料840-1040円程度

内 容：ジョサイア・コンドルが、岩崎家命の文化財である開南堂・特別名勝「大観園」と岩崎家命「日台阿蘇園」を、歴史館ボランティアガイドの解説により散策します。旧台阿蘇園では敷地内のコンドル設計の建物内蔵も見学します。

対 象：高校生以上、障病・身体・高齢者の参加も自身で歩ける方（介助の必要な方は、介助者とお2人1組でお申し込み下さい）

※往復はがきに「3/4史跡めぐり」、氏名、年齢、性別、連絡先も、返信はがきに住所と氏名を明記し、2月9日(火) 必着で文京ふるさと歴史館へお申し込み下さい。1通につき2名様まで申し込みます。

展示解説

日 時：令和3年2月3日(日)、26日(金)、3月3日(日)、12日(金) 午後1時半から30分程度

※事前申し込み不要。各回ともに内容は同じです。1回の解説人数の目安は10-15人とし、超過した場合は解説員減員します。

参加費：入館料のみでご参加頂けます。

解説員：担当学芸員

※新型コロナウイルス感染拡大等により、展示会や行事等が中止、変更となる場合があります。詳細については、文京ふるさと歴史館のホームページをご確認ください。
<https://www.city.bunkyo.lg.jp/sekishikan/>

文京ふるさと歴史館

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課文化資源担当室
〒113-0033 文京区本郷 4-9-29
Tel. 03(3818)7221 Fax. 03(3818)7210

BUNKYO MUSEUM
4-9-29 HONGO BUNKYO-CITY TOKYO, JAPAN



交通案内

- 地下鉄丸ノ内線・大江戸線「本郷三丁目駅」下車、徒歩約7分
- 丸ノ内線・有楽町線「後楽園駅」下車、徒歩約10分
- 三田線・大江戸線「豊日駅」下車、徒歩約10分
- 都営バス「両砂橋上」バス停下車、徒歩約2分
- 日ノ倉「文京シビックセンター」下車、徒歩約10分

商品番号：D0120022

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願
いします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろ
しくお願ひします。

協力者：森本純代・中野理香（植彌加藤造園株式会社）

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-1
京都芸術大学日本庭園研究センター気付
日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342